

## 第7回 文京区保育ビジョン策定検討委員会 議事録

日 時 平成19年2月1日(木) 午後7時から午後9時20分

会 場 シビックセンター24階 第1委員会室

### 議事次第

1. 開会あいさつ
2. 「最終報告」の取りまとめについて
3. 「中間のまとめ」に対する区民からの意見について
4. アンケート等の実施結果について
5. その他

### 出席者

汐見稔幸会長、萩原久美子副会長、佐々木陽穂委員、大川米子委員、小林信男委員、深谷純子委員、菅原良次委員、飯田恭委員、安達陽子委員、高橋修平委員、高橋万由美委員代理、森吉弘委員、久武昌人委員、藤田くる美委員、安江とも子委員、小林大作委員、大角保廣委員、根岸かをる委員、吉田シズ子委員

### 議 事 録

(保育課長) それでは、これから「第7回文京区保育ビジョン策定検討委員会」を開催させていただきます。それでは、汐見会長よりお願いいたします。

(会長) こんばんは、おかげさまで中間まとめが昨年の暮れに配布され、その後、説明会会場でのご意見、それからメール等でのご意見をさまざまいただきまして、さらにずっと進めていただいていた種々のアンケートについても、まとまってきました。今日は、これまでいただいている中間まとめに対する区民からの意見について説明を受けて、これを本報告にどう反映させていくのかというあたりについてご意見をいただくということが中心です。

また、あまり取り組む時間がなくなってまいりましたけれども、本報告をどういうフォーマットで出すのか、それに向けてどういう作業、手順で進めていくのかということについても今日確認させていただきたいと思っております。

最初に、すでにお手元に配布している「中間のまとめに対する区民意見」という文章について、事務局の方からポイントをご説明いただきたいと思います。

(保育課長) それでは資料第20号に基づいて、中間のまとめに対する区民意見について、これについては事前に皆様のご自宅あてに郵送、もしくはファックス等で送らせていただいておりますので、お目通しをいただいたかと思っておりますけれども、私の方で概略をご説明をさせていただきます。時間の関係もありますので、7～8分程度と思っておりますので、駆け足になるかと思いません。

今回まとめてお出ししておりますのは、1月31日の受付分までです。区民説明会でいただいたご意見、それから添付のはがきによるもの、電子メールや、区民説明会のときの意見の募集のシート、その他は、ファクシミリという形でお読みいただければと思っております。

2ページについては、中間のまとめに対する全体についてのご意見です。特にこの中では、例

例えばナンバー1にございますように、こういうものをめざしていくという遠くにある目標についてももう少し書くべきではないかということ。3点目では、全体的に子育てに対する見方が暗いのではないか。4点目では、細かい施策に関してビジョンに載せてもよいかどうか疑問がある、というところが出されておりました。全体的には、かなり細かな施策が出ているということで、もう少しそれを大きなビジョンとして方向づけるようなところが求められるのではないかというご意見でした。

3ページの17番のご意見などが一番端的に表れているのではないかと思います、真ん中あたりで、子育ての中でどこに喜びがあるのか、何が幸せなのか、どういう子育てが望ましい子育てなのか、理想像や黄金の一瞬のようなものについて語る必要があるのではないか、といったご指摘がありました。18番もそれを取りまとめているようですけれども、遠くに掲げた目標とすべきこと、直近の取り組みとの仕分けが不十分なのではないか、というご指摘をいただいております。同じようなことの繰り返しになるかと思いますが、22番でも、ビジョンというものは具体的な内容というより、もう少し大きくいった方がいいのではないか、ということが載せられております。

これが全体的なことに関してのご議論ということで、6ページでは、個別の話になりますけれども、39番の中では、保育園の民間委託は行革の区民会議で決まったはずなのになぜ、ということ。もしくは、ビジョンは委託に関して進めるようなものになるべきではない、といったご意見をいただいているところもございました。

それから7ページになって、はじめに、もしくは第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲというところですが、今回の提案の中では、区報特集号でも、子どもを最優先するところを、私たちの中では優先的にやっていきたいというところでお示しをしたわけですが、やはり高齢者の方からだと思いますが、長年働いて貢献している功労者をもっと大切にすべきではないか。真にありがたい存在、区として存在しているわけをもっと考えるべきではないかといった、子どもを最優先するという言葉に疑問を出された方もいらっしゃいました。また、認証保育所の増設を望むという部分について、これは認証保育所ということだけではないのではないかと、といったご意見もいただいているところです。

同じく7ページ、Vision1については、公園に対してのご意見というのが多く寄せられています。現在、学校の統廃合との関係で、公園との関係のご意見が関連して寄せられているところが多いのかと思います。公園を遊びとふれあいの場にしていくというところでは、現実的に公園の数を減らしているのではないか。もう少し原っぱ型の施設を設けるという具体的な中身について知りたいということ。

それから8ページでは、9のところですが、ほめ方、叱り方や、子どもたちのありがたうが交わされる地域社会をめざしてくださいといった、社会のあり方に対するご意見。12のところでは、区に欠けているのは落ち着いた安心感だとか、子どもがのびのびと遊べる環境ではないかということ。さらに13のところでは、もっと文京区全体を見据えたまちづくりの視点を盛り込んでどうか。これについては、高層建築の規制などが必要ではないかというご指摘に対して、もう少し全体を見据えてということが載っていました。

15番のところでは、現在、私立保育園で働いていて、社会福祉法人の園でも子どもたち一人ひとりのことを考え、豊かに成長できるように努力をしているということで、区立の保育園だけではなくて、そういう社会福祉法人立も含めて、子どもたちのことを考えているということを盛り込んでどうか、といったご意見も寄せられています。

それから9ページ、Vision2については、協働・協治に対してワーキンググループで検討された中身と若干違いが出てきているのではないかということ。また、大型施設の整備ということも掲げたわけですが、これは大型施設というよりは、サービス一元化の手法ということがメインだったのですが、ここの中では大型施設ありきという形ではなくて、サービスをきちんと提供するという視点から検討するべきではないかということで、大型施設の建設ありきに対するご提案、ご意見が出ています。

11ページになりますが、ショートステイについて。ショートステイの需要については非常に少ないし、使わない方がいいと思うけれども、どこでも満員という状態の中で、やはりこういった施策についても充実をしていくことが大事なのではないか。子育てしているお母さんたちの重荷を軽くすることで、それだけ文京区が本気であることがよく分かってくるのではないかというようなご指摘もありました。

それから、これは施策に対することですが、他区に比べ一時保育をする施設が少ないように思う等々。現在、緊急一時保育は3日前までに申し込みをお願いをしていることがあって、当日でも利用できるようにしてほしいというようなご意見もいただいております。

おめくりいただいて12ページの23番では、特に外遊びもできず家にもってしまふ、この母子カプセルを解消できる支援を考えてほしい、といったご意見が寄せられました。

Vision3については、親の就労、多様な生き方の支援ということで掲げたわけですが、13ページの5のご意見の中で、区単独では限界がある項目だが、子育て支援のためには絶対に欠かすことのできない項目であると思われるということで、ここの部分の記載をぜひ充実してほしいといったご意見が寄せられています。

最後のVision4の、保育機能の中核としての保育園については、人員面や施設面でリソースに限りがある。その中でこれだけいろいろな機能を盛り込んでいくときに、保育園だけを対象としていってよいのかどうか。もしくは、働いている方が希望すれば保育園へ入園できる体制をめざすということについては、早期実現をしてほしい。

14ページの8番のところですけれども、保育ビジョンでは大きな論点にまったく触れられていない部分に違和感を覚える。それは区立保育園の民営化についてということで、何人かのご意見をいただいております。

そして保育の質の維持向上について、もう少し項目を立てるべきではないのかということや、15ページの中では、一時保育所と通常の保育は別にした方がよいのではないかというようなご意見をいただいております。

17ページ以降は、保育ビジョンの推進に向けてということですが、実際に区民参加で検討するということが、最後のところで骨抜きにされているような気がします、ということですが、子育ての予算の増額については国にこそ要求していくことではないかということで、高齢者の方は、寿会館のお風呂をなくすなど少ない予算で我慢をしている部分もあるので、この予算についてはビジョンの項目にはならないのでは、というようなご指摘もいただいております。

その他のところでは、区報については、新聞折り込みではなくもっと全体的に配布ができる体制を組んでほしいということ。それから、先ほどの母子カプセルにもかかわるのですが、自分のところでは密室育児をしている。家で絵を描く仕事をして、どうしても続けたくて、育児をしながら家でもできると言われたけれども、なかなか実際には難しいといったご意見などもいただいております。

事務局に対する質問及び意見については、これはビジョンについてということではございませ

るので、今回は説明は省略をさせていただきます。全体的な、区民意見の方向性というか、概略についてはだいたいこのようなところかと思っております。

(会長) 事務局の方で、この意見についてはぜひ最終報告に反映させたらどうかということがございますか。

(保育課長) 特に、後でお示しすることになると思います、本日席上にお配りしたアンケートの中でも、0歳、1歳、2歳のお子さんを育てていらっしゃる方の不安感というのが、やはり非常に大きいというのが、あらためて見つめていかなければならない視点なのではないかといったところは、事務局としても切実に感じているところです。

(会長) どうもありがとうございました。今のご説明と、皆さんも事前に目を通してくださっていると思いますので、この区民からのさまざまな意見について、ご感想、ご意見がありましたらお願いいたします。

(団体推薦委員) すみません、読んでいるはずということですが、私の勘違いだったら申し訳ないんですが、これはたぶん今日初めていただいたのでは…。

(保育課長) これは送ってあります。

(団体推薦委員) 1月31日までの意見は入っていない。

(事務局) 追加する前、26日までのものです…。

(保育課長) 26日までの分のとりまとめを送ってあるということで、本日のものは31日までの分について、追加してとりまとめたものです。

(会長) 特になければ、後でもう1回まとめて討論したいと思います。今日初めて目にするものになると思いますが、3つのアンケートのまとめを出していただきました。資料の21、22、23ですが、資料第21号については、父母連の方が父母の会メンバーに対して行ったアンケート。それと同じものを、第2グループのメンバーを中心に、緊急一時保育の利用者と、ぴよぴよ広場、それから病後児保育施設の利用者に対して、同じアンケートを配って回収して下さったものを合わせてまとめたものです。父母連の回答者が78人で、第2グループのメンバーが集めて下さったのが49人です。

資料第22号は、やはり第2グループによるグループヒアリングの調査結果です。1月12日と19日に行ってく下さったものの整理です。そして資料第23号は、飯田委員が中心になって保育士にアンケートを取って下さったもののまとめです。時間はあまり長くは取れませんが、それぞれのアンケートの調査結果について簡単なポイントをご説明いただければと思いますが、どなたか資料第21号についてご説明をいただくことはできますでしょうか。父母連の方の中でお願います。これを全部読んでいる時間はとてもないので。

(保育課長) どなたかご発言になる前に、簡単に冊子の作りだけをご説明します。父母連の皆さんからいただいた部分を、1ページから17ページまでにまとめてあります。18ページをおめくりいただいて、こちらの方が、同じアンケートですけれども、家庭で子育て中の主婦の方、もしくは緊急一時保育利用者の方、ぴよぴよ広場、あとは、保坂クリニックにご協力をいただきまして、病後児保育施設に置かせていただいたアンケートを同じように回収したものです。それぞれ母集団が違ってということで、人数的には78人と49人でしたので、定性的な傾向ということよりは、アンケートの回答をお寄せいただいた方がどのような感じを持っていらっしゃるのかということを中心にお読みいただけるのかなと思っております。作りとしてはこのような方で、自由記載のところを中心にとりまとめさせていただいたものです。母数は少ないのですが、傾向として分かりやすいように、冒頭に棒グラフを入れて若干の傾向を示してあります。

項目的には、「子育てが大変、つらいと思ったのはどういうときですか」ということが冒頭で1ページ、そしてもう1つ9ページに、「子育てしやすいマチにするにはどうしたらよいと思いますか」という形。同じように、19ページに「子育てが大変、つらいと思ったのはどういうときですか」、そして26ページに「子育てしやすいマチにするにはどうしたらよいと思いますか」ということを掲げた形となっております。

(会長) この整理は事務局でしてくださったのですか。

(保育課長) コモンさんです。

(会長) じゃあ、コモンさんが説明する方がいいのでは。こういう特徴があったとか、ありますか。こういうことがすごく多かったとか。全部読めればいいんですけど、時間がないものだから、まとめて。

(コモン計画) では、ご説明させていただきます。まず1ページから、こちらが先ほどご説明があったように、父母の会連絡会が加盟する父母の会メンバーに対して行ったものをまとめたものです。回答者の方がほぼ保育園にお子さんを通わせている保護者の方ということで、まず1ページ目ですが、「子育てが大変、つらいと思ったのはどういうときですか」という質問に対して、やはり一番多いのが仕事と子育ての両立、働き方というような回答になっています。2番目が子どもが病気のとき。これも1番に関連しまして、子どもが病気になったときに子どもを預けるところがないというところで、子どもが病気になったときという回答が多くなっています。

それから3番目として、保育園の問題で、保育園については量が足りないということが多く回答が挙げられていました。それから、兄弟、姉妹が同じ保育園に通えないといった内容が多く挙げられています。

細かい内容については、いろいろ回答された方の思いが込められているということで、そのまま全文記載という形にさせていただいておりますので、内容は詳しくご説明しませんが、後ほどお読みいただければと思います。

あとは4番目、相談相手や支援者がいない。5番目、孤独に子育てをしていると感じるとき。6番目、自分の時間が取れないといったことが挙げられています。

飛ばさせていただいて、9ページ目ですが、「子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思いますか」という質問に対しては、まず1番、子育て支援サービスの充実。それから2番目として、保育園機能・施設設備の充実。3番目として、保育園・育成室の整備、待機児の解消といった意見が上位3項目に挙げられています。

保育園サービスの充実に関しましては30件ほど挙げられているんですけども、やはり一時保育ですとか、緊急一時保育に関する内容や、ファミリーサポートのことや病後児保育といった内容が寄せられています。

これらの子育て支援サービスについては、もちろんサービスをもっと利用できるようにたくさん増やしてほしいといった内容もありましたけれども、もっと質的なもの、機能の部分として、すぐに利用できるようにとか、ちょっとしたときに利用できるように、もっと利用しやすくしてほしいといった内容が多く挙げられていたかと思います。

2番目の保育園機能・設備の充実については、今ある保育園の機能は大変よいものなので、そういった機能を保育園だけに限らずにたくさんの方がアクセスできるようにしてほしいといった意見が多く挙げられていたかと思います。

3番目、保育園・育成室の整備、待機児の解消については、やはり保育園が足りない、育成室が足りないといった意見が多く挙げられていました。

そのほか特徴的なところでは、回答者が保育園に通わせているご家庭というところで、これからお子さんが小学生に上がっていくというところもありまして、7番目の医療費助成の拡充をもっと考えてほしいといった意見もあったかと思えます。

次に、18ページ以降は先ほどとちょっと違っておりまして、お子さんがもう少し低年齢になっています。こちらは回答者の状況を18ページにまとめているんですけども、回答されている方はほとんどお母様、年齢は30代後半の方が多くなっています。それから、回答者の方は主婦の方が多くなっておりまして、お子さんの年齢は2歳が一番多く、次いで1歳というような形になっています。こちらは低年齢のお子さんを育てているお母さんから回答をいただいているところですよ。

19ページですけども、先ほどと同じように「子育てが大変、つらいと思ったのはどういうとき」という質問に対して、こちらの方では、自分の体調が悪いときといった回答が一番多くなっています。やはり自分の体調が悪いときでも子育てを休むことができないということで、この回答が一番多くなっています。

それから交通機関や道路の問題点です。まだお子さんが小さいということもありまして、ベビーカーでの移動が大変ということが多く挙げられています。3番目、自分の時間が取れない、したいことができないということで、こちらはやはり支援者がいないということでそういった回答が多く挙げられているかと思えます。

こちらの調査に関しまして特徴的なところでは、7番目として、出産後しばらくの間とか、こういうことに関しても回答が挙げられています。やはり出産して3カ月ぐらいまでの間がとても大変だという意見があったかと思えます。

26ページにいきまして、「子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいと思えますか」という質問については、父母連の方と同じように、一番多いのは子育て支援サービスの充実です。2番目として、幼稚園の記述についても17件ほど意見が挙げられています。3番目は、子育て支援サービスにもかかわるのですが、子育てひろば等交流できる場の充実といった意見が挙げられています。子育て支援サービスについては、やはり病後児とか病児、一時預かりについての意見が多く挙げられています。

幼稚園に関しては、区立については3年保育実施園が少ないというような意見が多く、幼稚園についても充実してほしいという意見がたくさん挙げられています。

子育てひろば等については、子育て支援サービスの充実等にかかわるのですが、やはりこの年齢の子どもたち世代のお母さんとしては、母親同士も交流できるような場がほしいという意見がたくさん挙げられています。そういったところで、子育てひろばの充実というところはかなりいろいろな意見が挙げられていたかと思えます。

あとは5番目、公園と遊び場の整備。それから6番目、交通機関や道路、移動手段の整備、これはやはりバリアフリーの問題です。こんなところですが、よろしいでしょうか。

(会長) どうもありがとうございました。アンケート結果を項目ごとに整理していただき、その順番を示していただいているのですが、このアンケートを取られて、もう少しこういう項目を充実させなければまずいのではないかということを感じられたことはありますか。

(公募委員) もともと実はこのアンケートについて、結果をこういった棒グラフにしていただけではないかと、区を通してコモンさんをお願いした提案者は私なんですけれども、まずちょっと見ていただきたいのは、19ページの自分の体調が悪いとき、これが一番子育てが大変と思ったという意見が15件あります。49人いるうちの15人もが、複数回答ながらも出しているわけ

です。30%以上の方がそれを常日頃不安に思っている。これを何とか皆さんに分かっていただきたくて、このようにお願いしました。それがいきさつです。

今、先生がおっしゃいました、今回まとめの中で漏れているのではないかというお話ですけれども、後にグループヒアリングの方でまたちょっとお話しできればと思うのですが、27 ページで幼稚園の充実というのが、子育てしやすいマチにするためにはどうしたらよいかという項目の中で、2 番目に出てきています。3 年保育を実施している区立幼稚園がとにかく文京区にないと。皆さん、3 年保育の幼稚園に入れる前の年から動き始めるんです。なぜかという、区立がないんだから私立に入れるためには、プレ幼稚園に入れないと順番が回ってこないから、3 年保育を受けるならば、先にプレに入っておかないと順番が回ってこない。そういう情報が回って、みんな落ち着かない時期が出てきてしまうんです。区立の3 年保育実施園がぼんと増えれば、みんなの不安が解消できるのではないかと思います。

(会長) ちょっと僕も意外だったと思うのは、在宅保育をしている方が、幼稚園を充実させてほしいと。3 年保育、あるいはもう少し前からそれに来ていいという形でやってくれないかと。特に公立の幼稚園に対する不安が強いということですね。これは1つ、書き方は工夫しなければいけないかもしれませんが、少し書き込まなければいけないことかもしれませんね。

子育て支援のための機関としての幼稚園、今までそういう視点は十分ではないですね。文京区は幼稚園へ行っている子どもの方が多いんですよ。

(保育課長) 統計的にこの十何年あまり変わっていないのですが、保育園に通っていらっしゃる方は約 25%、75%の方が幼稚園へ行っていたり、保育園へ行っていなかったりという方です。その75%の内訳はちょっと分からないですが、いずれにしても、保育園に行っていない方がだいたい25%という数値は、この十何年だいたいそのくらいの割合できています。

(会長) 全国平均では保育園児の方が多いんです。ところが、文京区とか港区というのは圧倒的に幼稚園児が多いんですね。幼稚園の方も念頭に置かないと、全体をなかなか視野に入れられなくなりますね。

(団体推薦委員) 1つ数字の確認ですけれども、汐見さんのおっしゃったのは幼稚園児と保育園児の比較ですよ。久住さんのおっしゃったのは…。

(保育課長) 幼稚園と保育園に行かせていない…。

(団体推薦委員) そうですよ。そこがズレているので、その数字があったら分かりやすいかなと思います。基準が違ったことを比べても意味がないので。

(保育課長) 私が言ったのは、保育園に通っていらっしゃる方がどのくらいなのかというと、ほぼ25%。残りの75%がどういう動態なのかというのは、分かりません。

(会長) その辺のデータがあればどこかに載せたいですね。

前半の方の父母連は、やってくださったアンケートについてどうでしょうか、ご感想はございませんか。

(団体推薦委員) 父母連の保護者は、現在は保育園に通わせているんですけども、0 歳児、1 歳児、2 歳児で、保育園に通わせていない時期も経てきているので、やはり保育園に入っていない時期の子育て支援サービスの充実ということも、実体験を通して切々と訴えているご意見が多いなど。保育園の充実だけでなく、ヘルパーさんですとか、それに対する補助ですとか、そういったご意見が多く出ていて、やはりこういったところに、前から言っていることですが、光をもっともっと向けていかなければいけないと思います。

(会長) それでは、また後で気が付けばご意見をいただくということで、時間もございません

ので先に進めたいと思います。グループヒアリングの調査結果、資料第 22 号についてですが、藤田さんよろしいですか。

(公募委員) ざっくりと説明させていただきます。1月12日、それから1月19日の2回に分けてグループヒアリングを行いました。1回目は、だいたい2歳4カ月から2歳9カ月の子どもさんのお母さん、それから2回目は、6カ月から2歳2カ月の子どものお母さんで、うち外国人の方を2名含みます。どちらの方も私は個人的に存じ上げているんですけども、お一方は全然日本語が話せなくて、日本語が話せないつらさというのをもちです。だんなさんが日本人なので、家に帰れば何とかできたりはするんですけども。

もう一方は、日本語はお上手なんですけれども、日本人の中でわっとママさんが話すような、そんな会話では、うんうんと聞いているけれども、実は分かっていなかったり、そういうつらさを持ったお母さんです。何で聞いていなかったのと、そういう突っ込まれ方をされてしまうんでは、ある意味つらいのではないかと私は思っています。そちらの方お2人に2回目の方に入らせていただきました。

1回目のヒアリングの方からざっくりとご説明させていただきますけれども、やはりここでも緊急一時保育・一時保育がとにかくほしいと。自分が病気になったときにすぐに見てほしいのに、5日前に登録しないといけないのは、結局、緊急一時になっていないのではないかと、とにかく急なときに支援してくれる人がいない。その中で1人引っ越しを計画していて、申し込めばすぐに取りあえず子どもを見ていただいて、その間に自分は引っ越しの準備をしようと思っていたのに、まったくそれができなくて本当にしんどかったとか、そういった声も出てきています。

それから、家事支援サービスがあるといいといったご意見も出てきました。緊急一時・一時保育については、自分の具合が悪いときに見てほしいといった意見と、とにかく半日でもいいから、ちょっと息抜きというか、ガス抜きをしたいと、そういったような意見も出てきました。それが緊急一時、もしくは一時保育についてです。

医療費の助成についてですが、医療費の助成をもっと充実してほしい。それから3ページに飛びまして、充実した児童館が身近にあるとよい。文京区の公園は遊具が少なくて充実していない。うちの近所もそうなんですけれども、ベンチの周りにタバコの吸殻があり、それが危険であると。もっと大人がタバコに関して、捨ててはいけないという意識を持たなければいけないのではないかという意見が出てきました。

これは文京区ですごく共通した意見で、たくさんの方が思っていると思うんですけども、児童館は午後は大きい子が来るから危ないということで、利用時間が午前中に限られている。なので、午後遊ばせるところがないんです。それを何とか解消していただきたいと、私自身も常日ごろ思っておりましたので、それはもっともだと思いました。

児童館の施設が老朽化している。子ども家庭支援センターのような施設を、廃校にする小学校などを有効利用してつくってもらえたらという斬新なアイデアも出てきました。文京区の児童館は使いづらい。畳の部屋がありますからと言ってくださるけれども、2歳になると畳の部屋では遊ばせられないという意見もありました。

3ページの下にアンダーラインが引いてありますが、年齢に応じて安心して1日遊べるところがない。やはりここでも、午前中しか遊ばせられないので困っていると。児童館によってはご飯も食べられないところがあるので、そうすると食事の前に帰らないといけない。規則正しい子どもの生活を考えると11時半とか12時には帰らなければいけないので、実際にそこまでしか遊べなくて、非常に遊ぶ時間がないといったような意見でした。

4 ページにまいりまして、仲間づくりの場づくりについて。ここで私も、そんなことがあったんだなと知りました。初めてふみちゃんのおうちに行ったそうです。そこであまり対応がよくないと感じてしまった。やはり子どもが小さいときは何をすることも勇気がいるところで、親切ではない対応をされると非常に母親としても不安になるので、こういったところはもっと対応がよくないといけないのではないかという意見でした。

地域に根付いた子育ての場がないから知り合う機会もないし、周りのことが分からない。まち自体の関係も希薄だから、マンション住まいではなおさらといった意見もありました。

それから、フレッシュママのような場・機会がいっぱいあるといいという意見も出ました。これはちょっとご説明させていただきますと、生後数か月の子どもとそのお母さんの集まりを保健所で定期的にやっているんです。みんなに聞くと、それは月に1回ぐらいしかないんですけども、息抜きがやっと思える場所ということでものすごく楽しみにしていたと。これを結構、心の支えにしていたという意見も出てきました。

これは民生・児童委員の方からうかがったんですけども、ラッコの会という、やはりママさんの集まりがあるそうですが、たった1回の会に60組ぐらいのママさんが来るそうなんです。やはりそれも、みんなが知り合う機会、一緒に遊ばせる場所がないから、みんな楽しみで楽しみで、それを待ちわびているわけです。そういう機会がもっとあって、時々そういう日ができればいいのではないかという意見です。

4 ページの下の方ですけども、もう少し集まる場所を貸してくれると集まりやすい、遊びやすい。5 ページにいきまして、子ども家庭支援センターのような大きいものがあれば、すべてそこで集約できてよいと。こんな感じです。

子育て支援全体の方なんですけれども、文京区のお母さんは年齢が全体的に高いと思うので、ほかの区に比べて子育て支援を充実してほしいと。若いぴちぴちしている体力も気力もあるお母さんに比べて、高齢出産というのは非常に体力もいるので、そういった意味でもう少しサポートがほしいといった意味のことです。

ここでもやはり幼稚園のお話が出たんですけども、3年保育を実施する区立幼稚園を増やしてほしい。私はこの場に立ち会って聞いていたんですけども、結構このところではみんな熱く語ってしまっていて、とにかく児童館ではみんなが集まって、ランチまで食べて、ゆっくり遊ばせる場所がないと。それで私たちは、新宿だのいろいろな区に行ってジプシーのような生活をしているのに、今度は幼稚園を探すのに、またジプシーみたいにあっちへ行ったり、こっちへ行ったり、いろいろな情報を集めてやっと思える幼稚園に最終的に行ける。そこまでが長い、そんなお話でした。とにかくみんなとしては、ジプシーのような生活づくめでなく、安心して3年保育の幼稚園に入れる体制を望んでいるといった意見でした。

すごく印象的だったのが、その年に幼稚園のクラスを開いていただくのに、児童館の仲間で結託して、今年はこの幼稚園に申し込もうというふうにみんなで願書を出さないと、幼稚園の運営自体がされない可能性がある。そんな不安を皆さん持っていて、実際、やっているといううわさもちらりほらり、本当かどうか私は知らないんですけども、そういううわさはよく聞きます。

次の6 ページです。幼稚園は取りあえず3歳では私立に入れておくか、というところではないので、編入するというのでは意味がない。本当は区立で3年保育をしてほしいんだけど、それがないので、取りあえず3年保育をやっている私立に預けて、次の年に区立幼稚園に入る、こんなことをしなければいけないのかという意見でした。

それから第2グループのヒアリングの方に移らせていただきます。相談できる場が身近にほし

い。とにかく情報が必要だ、相談したい、そういった意見が出てきたようです。私はこの日ちょっと出席できなかつたんですけども、そういった情報や相談については、やはり要望がありました。緊急一時保育・一時保育については、一時的に預かってくれる保育施設がほしいと。

次に8ページに移りまして、気軽に預ける場所がないと大変という気持ちがあり、気持ちの面で焦ってしまう。本当にこういうところだと思うんです。「預けられる」と思っているのと、「預けるところがない」と思うその不安の差を分かっていたきたいというお話のようでした。

不妊治療に対する経済支援も話の中に出ました。それから8ページ下の方ですけども、おっぱいの問題は結構大変。出るなら出るで大変だけど、出ないなら出ないで親として失格なのではないかと、そんなことを感じてしまう。それから、やはり乳腺炎ですとか、母乳が出づらくて苦労したとか、そういった意見も出てきています。

保育園についてですけども、やはり保育園が少ないという印象を持っていると。保育園の入園は点数で判断するのであろうが、私たち一人ひとりの深刻さを反映できていないと感じるというお話でした。

そして遊び場、安全なところが必要。やはり怪しいというか、ホームレスであったり、そういった人がいると、小さな子どもを連れて行くのは非常に不安であるといったお話でした。

外国人のお母さんの悩みですけども、言葉が同じママさんたちと話せる場所、交流できる場所がほしいと。実際に文京区ではこういった場所がないので、非常に困っていらっしゃると思います。

中に1人、お子さんが2人いらして、1人は幼稚園に入れていらっしゃるというお母さんがいらしたんですけども、そのお母さんがおっしゃるに、園の送り迎えのバスがないというのがちょっとつらいと。下の子どもと一緒に、遠くの私立の幼稚園へそのお母さんは連れていっていらっしゃるんですけど、毎日ちゃんと歩けない下の子の手を引っ張って、それから上のお姉ちゃんだってよそ見をしながらゆっくりゆっくり歩く。それを毎日、毎日、2人連れて行って帰ってくるのは大変だと思います。そういったお話でした。

労働環境について、以前委員会の中でも出たように、会社が変わらないと夫は育児ができない、そんなふうな意見も出ました。

次に10ページを見ていただきます。まちづくりについて、子どもと行きやすいレストランや喫茶店などがあると非常に息抜きになる。文京区は坂が多いので何をするにも大変。ベビーカーを押してブロックは歩きにくい。いろいろな意味で子どもの視線で考えてほしい。

それから、家族や周囲の理解・協力についてなんですけれども、おじいちゃん、おばあちゃんの子育てに参加したいという気持ちを生かすことも重要。夫教育をしてほしい、子育てに関する家族教育をやってほしい。ここで話が出ましたのは、よかれと思って言ったださる年配の方々、ご近所の方々の声が非常に自分の心に突き刺さると。「私の時代はそうじゃなかったわよ」であったり、世代が違うのでやり方が違うことを、親切に言ったださっているんですけども、そういったことがあったり、それから「離乳食は何をつくったの？ どうしたの？」というふうに親御さん、お姑さんに言われると非常につらいと、そんなふうな話でした。

ちょっと話が飛びますけれども、私自身もすごく思っているのですが、上の世代の方々、私なんかは3~4人育てたわよ、というふうなスタンスでものをおっしゃったりするんですけども、それが結構私たちにはつらかったりするんです。じゃあその時代と、今のマンションの密室でやる子育てと一緒になのか、時代の変化というのはどうなのか、そういったところを考えずに言われる方も結構いらっしゃるんで、そういったことがつらいと、こんなふうな話の内容でした。

以上です。

(男女協働子育て支援部長) 今の発言の中で、いくつか平成 19 年度の予算で対応しているところが出てきていますので、情報提供という形で簡単にご説明させていただきます。医療費につきましては、今は入学前までの医療費は無料なんですけど、義務教育終了までに、今年の 10 月 1 日以降は延ばします。ですから、義務教育終了まで保険診療の医療費については無料と。

それから不妊治療の医療費ですが、これにつきましても、保険適用外の不妊治療費については 1 年間に 10 万円を限度に 5 年間助成するというのも、平成 19 年度予算から対応してまいります。

それから、おっぱいが出ないという話ですが、新生児沐浴指導事業ということで、育児不安を持つ親に対して、母乳対策としての乳房マッサージや沐浴指導の訪問指導を平成 19 年度から開始しますので、そういった医療的な関係は少し進んでくるのかなということで、一応ご報告させていただきます。

(公募委員) 今のお話でちょっと確認させてください。すみません、勉強不足で。区のサイトは拝見したんですけども、あれは予算案ではなくて、もう決定したものというふうに考えてよろしいのでしょうか。

(男女協働子育て支援部長) 予算は議会の議決が必要ですので、決定ではございませんが、予算案ということでプレス発表したということです。ですから、正式には議会で議決されて決定されるわけですが、一応、見込みということでご報告させていただきました。

(会長) 藤田さんの方から、ビジョンの中でこのことはもう少し具体的に盛り込んだらどうかというようなものはありますか。

(公募委員) まず幼稚園のことを今まで私たちは見落としていたので、3 年保育を行ってくれる区の幼稚園をもっと増やしてほしいというのを、ぜひ盛り込んでいただきたいと思います。

それから、ここで言うことかどうかわからないのですが、認証保育園を増やしてほしいというのが中間まとめの方に載ってしまっていて、本当に認証保育園を増やしてほしいのか、そういったご意見を区民の方から 1 人 2 人ではなくて何名からかいただいているようです。実は、これはたぶん私が言ったことを基に書かれているのだと思うのですが、認証保育園を増やしてほしいと言っていない。良質の、区立の保育園に相当するほどの質のよい保育園、そうすると良質の認証保育園というふうな書き方になると思うんですが、そういう意味です、と区の方にお伝えしたんですけども。ここで汐見先生にご確認いただいて、質がいいから認証保育園なんですよというふうなご回答をいただいたので、こういう載せ方になると思います、というふうにいただいているのですが。

(会長) そんなことは言った覚えはないですね。

(公募委員) そうですか。すみません、伝言ゲームで間違えたのだと思います。

(会長) 認証保育所にはいろいろ意見がありまして、もともと今の認可保育所よりも基準が少し低いわけです。園庭がなくても大丈夫だとか、駅から近いところとかいくつか条件があるわけです。実際の認証保育所というのは、かなり玉石混淆という感じがします。A 型、B 型というのがありまして、A 型は 30 人以上、B 型は個人でやっている方が多くて、その人の中にはすごく努力をしてやっておられる方もたくさんいますが、A 型の中にも、企業がある種の営利目的でやっているところがありますから、認証保育所を増やせばいいというふうにはたぶん簡単にはならないと思います。

ただ人口動態とかいろいろ考えると、人口は増えてはいくんだけれどもいずれは減っていくと

いうときに、認可保育園をたくさんつくるというのはなかなか難しいと判断している区がたくさんあります。そういうところは、悪いけど認証保育所で少し切り抜けているという、そういうところがあります。それは厳密に議論をすると大変面倒くさいことですが、

(公募委員) よろしいでしょうか。認証保育園を増やしてほしいという中間まとめの項目を、良質の認証保育園、もしくは区立の保育園並みの総合点を持っている認証保育園とか、そういうふうに。

(副会長) よろしいですか。具体的に認証保育所がほしいということは、ビジョンの中には盛り込まれていないです。文言として、Vision1、2、3、4で、認証保育所がほしいと、充実させるべきだということは書いてなくて、おそらく第Iの保育ビジョン策定の背景の(3)就労支援の充実の必要性のところに、「延長保育のスポット利用」「認証保育所の増設」「病後児保育」などの充実を望む人が増えていますという、この書き方の部分に対応してのコメントをいただいたのではないかと思います。

ですので、就労支援の充実の必要性というのも区民の方から、もっときっちりとさらに踏み込んで書いてほしいというご要望がありますので、ここの部分は再度また検討していけるかなと思います。

(公募委員) 少しだけそれに付け加えさせていただいてよろしいでしょうか。もう一度おさらいさせていただきますが、なぜ私が良質の認証保育園を増やしてほしいと申し上げたかといいますと、もうがぜん保育園が足りないわけで、とにかく、何でもいからという言い方は変なんですけれども、区立であるとか、そういうことではなく、良質であれば親にとってそこは実はこだわらないわけで、認証保育園でもまったく、非常にありがたいわけです。

認証保育園のメリットというのもありまして、例えば区立の保育園の中でお母さんたちみんなが「何とか先生にリトミックにぜひ週1回来てほしいわ」と、そんなことを言っても誰も、区立だからやることは不可能なわけですが、認証保育園というのは私立なわけで、みんながそれを望めば、何か習い事的なものを保育の中で取り入れるとか、そういう小回りが利く。中小企業的なことができるわけで、そういった意味ですごくいいのではないかと思います。

私の知り合いで、やはり認証保育園にお子さんを預けていらっしゃる方がいるんですけども、その方は自分のご自宅で仕事をしているときには、就労支援ということで頼りにしてそこに預け、だけど休みたいわというときには預けずに。今度は妊娠されたわけなんですけれども、おなかが大いからつらいわというので預けたり、預けなかったり、そういうふうに1か所でいろいろなニーズをすべて認証保育園なら満たしてくれるわけです。それが区立の保育園であれば、仕事を辞めるなら1回出なさいということになるでしょうし。妊娠のときだって、いろいろな条件がなければ入れてくださることはできないし、また同じ保育園になるかどうかというのも区立園では分かりません。

そういった意味で、1つの場所でずっと安心して預けさせていただけるというので、そういったニーズはあるのではないかと思います。

(団体推薦委員) 2点申し上げたいんですけども、先ほどの資料21の26ページのアンケートで幼稚園のことが出ていました。これはグループとしては第2グループの調査結果ですよ。そうしますと、第2グループの調査に応じた方々がどういうお母さんかと申しますと、必ずしも保育園の必要性を感じていない方々というか、一時的に、ワンポイント的に利用したいという方たちのアンケート結果ですね。ですから、そういうところはきちんと踏まえた上で分析していった方がよろしいのではないかと思います。

1と2を合わせれば、こういう結果にはならないと思います。第2グループというのは、ほとんど保育園に入っていない方ではないかと。1日の保育利用を希望していない方ではないかと思えますけれども、その辺の読み方をよろしくお願ひしたいと思えます。

それからもう1つ。認証保育所の問題が出されましたけれども、社会福祉法人の保育園をやっているからということではありませんが、確かにお母さんたちの要望なり希望なりからすると、今のようなご意見も分からないではないですけれども、やはり子どもたちの保育条件なり保育の質を考えたときに、例えば習い事だとかいろいろな多面的なメニューをやってくれるから認証の方がいいのではないかと聞こえたのですが、そういう分析の仕方もあるかと思いますが、もう少し子どもの視点から見て、そういう内容の保育がいいのかどうなのかということを含めながら議論をしなければ、何でも容易にできるから、柔軟に対応するから認証がいいんだということは、やはり私としては、議論としては精密さを欠くのではないかという印象を受けます。

特に認証保育所の場合は、先ほど汐見先生がおっしゃられたように、非常に条件的に、例えば保育料も高いし、もう1つは面積基準は2.5㎡と、今の最低基準を下回ってもいいと。いろいろな形で保育条件、保育の質にかかわる大きな問題を含んでいると私たちは見えています。ですから、その辺のところをきちんと踏まえて、議論をしていただきたいと思えます。以上です。

(団体推薦委員) 今のコメントに1点ほど私もご意見させていただきたいと思えます。まず22号の資料ですが、これは本当に誤解のないように申し上げますと、第2グループでやりますよという話は聞いていました。ですが、どういうふうにするかということで、第2グループの成果物として出すのであれば、みんなで実施要綱をどうするかということをやちゃんと確認させていただきということを経理局に申し上げていたと思えますが、ちょっとそのご連絡はいただけていないので、第2グループの成果物と言われると、ちょっとどうかなというふうに思っています。

グループヒアリングなので、専門家の皆さんもここにいっぱいいらっしゃると思えますけれども、非常にとらえ方はすごく難しいと思うので。やり方によっては偏っているふうに見られてしまう危険があるので、慎重にやった方がいいのではないかと思えました。そういう意味で、ちょっとオーソライズができていない。ただ、これはこれで1つの資料にはなると思っています。

2点目、先ほどのご意見の、認証が必ずしもいい、親のニーズに応えることが必ずしもいいことではないのではないかと、総合的に考える必要があるという指摘は、私もごもっともだと思います。親の利便性を考えることが必ずしも子どもの幸せにつながることはないというふうには私は強く思っていますし、子どもの幸せをやはり最優先すべきであろうと。

やはりこの議論をするときには、保育の質ということに収斂されてくるのだと思えます。ですから、確かに良質なものであればいいのだと思えます。ただ、やはり勢い、民間のところではそうならない可能性もある。じゃあ区立はというと、確かに柔軟性という意味では欠けるかもしれないけれども、先生方の本当にたゆまない研修とか、すごい努力があつて、ノウハウが蓄積されてぶれない。ぶれないという意味で、我々も柔軟さに欠ける面では苦勞も多いけれども、そこは本当に感謝しているところです。そういった意味で、当然区立の保育園がもっとももっと増えればいいと思うし、良質の民営の認証ももっとももっと増えればいいと思うし、両方なんだと思えます。要は、質をどうやって担保できるかという話なのだと思います。以上です。

(公募委員) いろいろ説明不足で、少し説明をさせてください。私自身も実は、第2グループの成果物というふうに出されたので、そういう出し方をするんだというふうには思ってしまったのですが。一応、第2グループの方々にメールを1本、こんなふうにしよと思うんですが、もし意見があればというのを送らせていただいたのですが、たぶんお忙しかつたから気が付いていた

だけなかったのかなというふうに思っています。

それと、先ほどのタレント的なというか、習い事をお母さん方がやりたいと思ったらやれる、そういう小回りのよさということについて、もう少し説明させていただきますと、私自身、自分が働きたくて保育園、それとも自分がべったり家において幼稚園というのを考えた時期があります。幼稚園と保育園って、預けるという意味では一緒だけれども、やはり幼稚園の方がいろいろな学習的な機能があるというふうに私は理解しています。間違っていたらすみません。幼稚園であれば、例えば英会話の授業がある、そういうのを売りにしている幼稚園があったり。ですけれども、区立の保育園でちょっとそういうのは聞かないんです。

私自身が時々思うのですが、保育園に預けていらっしゃるお母さん方は、自分が保育園に預けているがゆえに子どもに思い切り習い事をさせてやれなかったとか、そういった不安はないのかなと。そこでもし認証保育園で、小回りが利いて、やはり学習的なものをうちもやりましょうとか、そういう方針が出て学習的なもの、エデュケイショナルなものを入れれば、それはそれですごくいいものになるのではないかなと。そういったことを考えて申し上げたんです。

いい認証保育園があったとしても、ぶれないという保証はないというか、区立ならばぶれないというその考えも、すごくごもっともだと思うんです。私も個人的に、いつも飯田さんがおっしゃる母乳ですとか、そういうことは素晴らしいと思っていて、近所にもし飯田さんのやっていたら保育園があればぜひ預けたいというふうに思っているんですけども、もし、飯田さんのおじいちゃんになっちゃって、もう引退だよとすると、飯田さんの意思がずっと下の世代の人に同じように受け継がれて、みんなが同じように一生懸命やってくれる保証もないわけで。そういう意味では、やはり区立の方がぶれないということなのだと思います。

(会長) ちょっと時間もありますので、ここでその議論をずっとやっているかと…。

反映の仕方は考えますけれども、あまり明確に限定するような書き方ではなく、良質の保育環境をもう少し、保育所を増やすことを含めてやらなければいけないということについては書きたいと思いますが、それが認証保育所かどうか、限定した書き方というのは相当議論しなければ難しいと思います。

もう1つ資料がありますので、飯田さん、少しご説明いただけますか。

(団体推薦委員) なかよしの家保育園の歴史は43年になって、数年前に認証保育所になったのですが、それ以前はずっと父母の共同保育所でやっていたのです。なので、父母たちがこうしたいというふうに考えて、その中で英会話などは全然ないんです。薄着でいこうとか、そういう泥くさいところでやってきたのです。僕はそのうちのほんのちょっとしかかかわっていないので、今までの人たちの遺産というふうにご理解いただきたいと思います。

僕が手がけましたアンケートは、今までの2つの報告があったアンケートとは視点がだいぶ違うのですが、中間の報告をさせていただきたいと思います。いろいろな事情で、まだあくまで中間報告で、結構分析が大変なので、あと1か月ないし1か月半の間に最終的な報告書をしっかり仕上げたいと思っています。

アンケートの問題意識ですけれども、以前配られてネットの方に載っていますのでご参照いただきたいと思いますが、最近、保育園や保育士の評価という言葉をよく耳にします。しかし、平日毎日10時間保育園で過ごす子どもでさえ、1週間で見ると70%以上の時間を家庭で過ごしている計算になります。保育園が子どもの育ちにとって好ましい環境を整えることは非常にありがたいことですが、いくらそれをして、それだけではやはり不十分であって、保育園と家庭とがともに連携して子どもの育ちを支えていく必要があると思います。

このアンケートでは、文京区立保育園保育士の先生方に、日ごろ接している子どもたちの様子、生活習慣、生活環境、とりわけ Vision1 の中で盛り込まれた生活リズムとか食生活とかふれあいの問題について、回答・記述していただくことで、とりわけ家庭での子どもの育ちにどのような問題があると先生方が日ごろ感じておられるのか、調査することとしました。また同時に、保育園の今後の、そしてあるべき役割についても、保育ビジョン策定との関連でご意見をうかがうことにしました。

アンケート対象者は、文京区立保育園保育士、保育士資格保有者のみに限定しました。366 名です。そのうち正規職員 273 名、非常勤職員 93 名、アンケートの回答者数は 287 名で、回答率は 78.4%です。そして、そのうち男性が 1.7%、5 人で、女性が 280 人、97.6%。2 人が無回答ということでした。

アンケートの実施の経緯を説明しておきたいと思いますが、このアンケートは僕 1 人ではアイデアもなかなか浮かばなかったのと、分析も結構大変なので、僕の選出母体である特定非営利活動法人なかよしの家、僕はそこの理事ですが、そこの正会員である飯田陽子、これは僕の妻でもありますけれども、と協働してやっていくということで始めました。

去年の 10 月 4 日に我々が協働で案出したアンケート素案を、第 2 回の保育ビジョン策定委員会に配布・提示しました。その後、我々がより詳細なアンケート案を作成した後、水道保育園の吉田先生、それからコモン計画研究所、それから久住課長、小野寺さんからありがたいコメントを受けて、修正を重ねました。そして 11 月 6 日にアンケートを完成し、11 月下旬まで久住課長、小野寺さんの仲介でアンケートを実施いたしました。

その後、12 月 12 日まで、全回答のエクセルへのデータ入力、及び単答式回答の定量分析をコモン計画研究所に依頼し、やっていただきました。これは大変な作業で、その後の分析が非常にやりやすくなりましたので、心から感謝したいと思います。その後、現在に至るまで、報告者両名による分析を進めている最中です。

ちょっとこれは私事にわたりますけれども、この間にうちで双子が誕生したこともありまして、てんやわんやで、本当は今日、もうちょっとまともな形で報告できればよかったのですが、今日はあくまで中間報告ということでご勘弁いただきたいと思います。

ここに、これから発表する内容の表になっている部分は、全部コモン計画研究所にやっていただいた部分です。これ以外にもクロス集計等をやっているのですが、今日は時間もありませんので、そこについてはまたおいおいお話しさせていただくことにしたいと思います。

まず 2 ページにあって、子どもたちの日ごろの様子・生活習慣・生活環境についてということで、子どもたちの生活リズムについて問題を感じますかという問いかけで、「感じていない」と答えた先生方は 2.4%、「少し感じている」26.8%、「感じている」44.9%、「とても感じている」24.4%と、非常にこれは厳しい回答が返ってきました。

問題を感じているという方に、どのような問題を感じているか。そして、その解決策としてどういうことが考えられるかということを書いていただきました。この記述が非常に力のこもったもので、まだ集計しきれっていません。最終的にはこの回答が何件あったかということまで出したいと思ったのですが、今の段階ではちょっと正確にそれをするのができませんので、まとまってこのような回答があったものについてのみ、ここでは紹介したいと思います。大きく 2 つに分かれまして、1 つは日々の生活リズムの問題。問題の構図は一致して、就寝時間が遅い。従って早起きできない、朝から食欲が出ない、午前中の活動が十分にできない、午後になって元気になる、そして遅寝というサイクルです。

その背景について、いろいろな指摘を先生方にしていただいたのですが、親とのふれあいの時間は大切だが、そのために遅寝になる傾向があるということが指摘されました。これはまとめて指摘されています。さらにその背景には、長時間労働で親の帰宅が遅い。あるいは、居酒屋に連れていくなど。以前では見られなかったようなことが出てきているとか、あるいは一緒に深夜テレビを見ているような事例も見受けられるということが書かれていました。

それからもう1つは、寝かしつけの意識が親に希薄なのではないかという指摘をいただきました。子どもが寝るのを待っている家庭が多いという指摘。

それから、週単位の生活リズムですが、問題の構図はゆとりのない休日、それによって月曜日の疲れが見られる。その背景にはどんなことがあるかということ、土日の習い事・塾・早期教育で子どもたちが忙しくなっている。それから、土日に大人の外出に付き合わされ、リズムが乱れる。保育園ではだいたい12時半から3時ぐらいまでお昼寝をしていますが、その昼寝ができないような形に外出によってなっている。その外出する理由は遊びだけではなくて、勤務に付き合わされているということも指摘があります。

それから次に、子どもたちの食生活について問題を感じますかということですが、「感じていない」と答えた方は6.6%しかいませんでした。そして、ここに書かれているような回答が返ってきました。その中身を見てみますと、どんな問題があるかということ、朝食の問題がかなりまとめて指摘されていました。1つは欠食、つまり朝食をとらない。それから、忙しい朝食。登園中に自転車・バギーの上で朝食をとっているということ。これはとても心配だということで、先生方から指摘されました。

それから食事の内容の問題ですが、これもいろいろな指摘があるのですが、その中で目立ってまとめて出てきているものだけをここに集めました。まず離乳食の進め方について非常に多かったです。ベビーフード、それから長い間の母乳、それから粉ミルクに頼りすぎているため、離乳のステップを適切に踏んでいけない。特に咀嚼力の発達が遅くなってきていると感じるという指摘がありました。それから、お菓子・ジュースのとりすぎ。偏食についての指摘もありました。つまり、苦手なものも含めて、食べさせるのではなく、好きなものだけを食べてもらっている状況。つまり、子どもの言いなりになっているという現象が見られるのではないかと思います。保育園では苦手なものも頑張るけれども、家庭では食べなくても許されてしまう傾向があるという指摘がありました。食事のマナーの問題についてもいろいろ指摘がありました。食べ物で遊んだり、食べ物を粗末にする。

それから保育園での取り組み。これが面白かったのですが、保育園ではこういうことをやっていますよということで、1つ、ある意味改善策にもつながることだと思いますが、野菜を自分たちで栽培、収穫して食べる。それから自分で豆むきをするなどの機会を設けていると。これによって食べ物を身近に感じられるようになる。それから、作り手への感謝の気持ちを持てるよということで工夫をする。それから食の安全などについて、これはいろいろと具体的な記述があったので、ぜひ最終の報告書には提示したいと思いますが、いろいろ個別に工夫した取り組みも行われているようです。

次に、子どもたちの友だちどうしのコミュニケーションについて問題を感じますかという問いかけですが、「感じていない」という方が19.2%、「少し感じている」が34.1%、「感じている」が35.2%、「とても感じている」が7.7%。

問題の所在ですが、これも非常にまとめてある傾向が出てきていて、年齢的な発達段階に比して、コミュニケーション力、特に言葉で意思を伝え合う力が低くなったと感じる。自己中心的、

すぐに手が出てしまう、一人遊びを好む。つまり、おもちゃの共用を嫌がるか、大人を仲介したがる、大人とのかかわりの方を好むといったような指摘がかなりありました。

ここでは先生方は原因の指摘も同時にされています。頻度が高く挙がってきたものとして、兄弟、姉妹の少なさ。それから、大人による子どもの受容が不十分なのではないかという指摘もあります。そもそも保護者、親自体が自己中心的でコミュニケーションが苦手なのだから仕方がない、というあきらめの指摘もあります。それから、テレビやメディアの影響が言葉に表れる。死ねとか、殺すとか、そういうことを言う。やはり、そこは親がきちんと選ぶべきではないかという指摘があります。

ここでもやはり保育園の意義について指摘されていて、一人っ子が多い中で、保育園の集団生活で子どもどうしが摩擦、トラブル、けんか、ぶつかり合い—この引用句は全部アンケート中から抽出してきたものですが—を大いに経験し、その中で自分の意思を伝える力をつけ、他者への思いやりを育むことができる。そういう意味で保育園は貴重だということです。

次に、子どもたちの先生とのコミュニケーションについて問題を感じますかということで、「感じない」という方が27.9%、「少し感じている」が39.4%、「感じている」23.7%、「とても感じている」2.8%。これは整理してみると、子どもの側にみられる、必ずしもこれは子どもの責任という意味ではないですが、子どもの側に表れる問題点、それから大人の側の問題点というふうに整理できる。

子ども側に見られるものとして、甘えの補完という現象がみられる。これはかなりの数に上りました。つまり、親よりも保育士に甘える傾向がみられる。これは家庭で甘えられない分の補完なのではないかというふうな指摘がありました。その甘え方に関してですが、保育士への過度の甘え。つまり、べたべたという言葉。保育士に1対1で対応してもらいたがる。幼児クラスでも保育士にダッコ、おんぶ、膝に座るなどのふれあいを求め、友だちと争う。1つ、保育士のおっぱいに固執するというような事例も挙げられていました。これは別の関連で書かれていました。保育士と友だちに対して区別なく接する。つまり、大人を大人と思わないという子が増えているという指摘もあります。

次に大人、保育士自身それから保護者の側の問題点として、大きくは次のものがあります。1つは、保育士に余裕がない。つまり人員不足の問題が指摘されています。1人の保育士の担当する子どもの数が多すぎて、一人ひとりの園児に手をかけてあげられない。これについては申し訳なく思っていると。手のかかる子、かかわり方が難しい子に振り回されるなど、子どもによって保育士とのかかわりの密度に差が出ていることが気になる、ということをおっしゃっています。

保護者と保育士との間の信頼関係の揺らぎ、これを指摘する方もいます。保護者と保育士との間に行き違いがあると、それが子どもと保育士との関係に影響するという指摘をされています。

次に、子どもたちの家族とのコミュニケーションについて問題を感じますかということですが、「感じていない」が7.3%しかなくて、「少し感じている」39.0%、「感じている」38.3%、「とても感じている」8.4%。多く挙げられたのは、まず時間のなさ。子どもが家族と過ごす時間が少なすぎる。送迎の際にも、早く早くと追い立てられるような姿を見ていてかわいそうになる。それからこれは提案ですけれども、やはり社会全体で就労時間の問題を考え直すべきだということをご意見として出されています。

それから次に親子関係について、これはまったく両極端の指摘がまとまった数出てきています。一方で、親が子どもの言いなりになっている。つまり、子どもの自由を尊重すると言いつつ、実は親が子どもに振り回されているという指摘が大量にあります。他方で、子どもが親に甘えられ

ず、親に気を使い遠慮をする。むしろ家庭でいい子になっているケースも目立ってきているという指摘がありました。このことは保育士への甘え、つまり甘えの補完の現象とも関係があります。

次に、日常的な子どもとの向かい合いが不足していて、イベントや電子メディアへの依存の傾向があるのではないかと指摘もかなりありました。テーマパーク、話題のスポット、イベント会場、遊園地、旅行などに出かけることが家族のコミュニケーションだと勘違いしているふしはなかろうかという問題提起が我々に突きつけられています。家庭や近所の公園などでの当たり前の生活の中での何気ないかわり、やりとりが大切なのではないか。日常において、子どもと向かい合うことが大切なのではないか。この、土日に非常に頻繁に外出するというのは、上述の生活リズムの乱れ、週間での生活リズムの乱れとも関係しているということです。

家族の中で日常的に過ごしている中でも、お互いに向き合うのではなく、テレビやDVDを見る時間が長いケースがあり、それが気になると指摘されていた先生もいらっしゃいます。

それから、保育をする上での保護者の行動とか、態度で困っていることについておうかがいしました。非常に多かったのが、保育士を子育てのパートナーと考えていないのではないか。つまり、子育て支援の一方通行という指摘がありました。離乳食の問題についてもそうですけれども、やはり保育園任せの傾向というものがかなり強まっている。それから、サービスを受容する利用者意識というものが強まっているのではないか。

それから、先ほどの保育士、大人を大人と思わないということに関係しますが、親が保育士を「何々ちゃん」と愛称で呼ぶ。保育園では「先生」と呼ぶように指導しているのと齟齬が生じてしまって、非常にやりづらい。子育て力、しつけ力の低下ということも突きつけられています。これは先ほどからずっと出ていることですが、子どもの言いなりになっている、子どもに振り回されている、子どもの自主性を尊重しているという保育士の言うことに耳を貸してくれない。それから、「先生に叱られるよ」と言う。つまり、何が悪いのかを自分で説明しない。それから過剰要求、過剰反応。ほんの小さなけがもだめ、虫刺されも嫌。そういうことによって、活動範囲が狭められてしまうという指摘がされています。それから我が子のことばかり考えてしまう。つまり、お互いさまという意識が欠如している。

次に、保育園の役割についてうかがいました。これについてはまだ分析が不十分なので、今まで出てきた論点と直接にかかわることのみここでは挙げさせていただいて、残る課題はまた後で紹介させていただきたいと思います。

夜間に及ぶ長時間保育について。これについては「賛成である」と答えた方が0.7%、「条件によっては賛成である」25.8%、「反対である」53.3%、「どちらでもない」13.9%です。賛成する理由は、消極的理由で、二重保育を受けるよりはよいだろうと。つまりはしごをして、保育園にいたのが今度は別のところに行つてという、はしごよりは子どもにとっていいだろうという消極的賛成。それから賛成する条件は、一人親の場合のみとか、あるいは夜勤の場合のみ、あるいは週（日）当たりの保育時間を制限した上でとか、親が病気など緊急の場合のみといったようなことが出ています。

反対する理由ですが、子どもにとってよくない。集団生活の負担、それから家族関係のさらなる希薄化が懸念される。それから夜間に及ぶ長時間保育を実施した場合には、親がさらに就労時間を延長することになるだろう。夜間や長時間の労働をしなくて済む社会をつくるべきだという強いご意見が出てまいりました。

緊急一時保育や一時保育についても聞いてみました。現状の保育園で在園児と一緒に預かることの利点として挙げられていたのは、周囲に頼れる人がいない場合、親が病気になったりしたと

きに安心できるだろうと。そういうスポットがいろいろなところにあるというのは安心できる材料になるだろう。それからもう1つは、虐待防止につながるということ。

それから、保育園で在園児と一緒に預かることの問題点として挙げられていたこととして、現行の保育園では人員不足・スペース不足が深刻である。それから、毎日の積み重ねで関係を築いてきた在園児のクラスに緊急で入園する、または親の都合で来たり、来なかったりする子どもが入ることの難しさを指摘する意見が非常に多くありました。つまり、双方にとってマイナスになるということで、じゃあどうしたらいいですかということで提案についても指摘がございました。やはり緊急一時保育・一時保育のための新たな専門の施設をつくるべきではないかという意見が多数出ています。もちろんここで紹介できていないものもありますので、またそれも全部すくい取って、できるだけお示ししたいと思います。

暫定的な所感ですが、特に1番の生活習慣・生活環境の問題についてですけれども、アンケートの結果を見る限り、子どもたちの生活習慣・生活環境（生活リズム、食生活、ふれあい）の問題は決して楽観できる状態にないというふうに思われます。中間のまとめのVision1に盛り込まれた内容を謳うことには、その意味では少なからず意味があるのではないかと思います。

それから、本アンケートでは保育現場での先生方の経験、感じ方に基づく生の声から、子どもの育ちが抱える問題が具体的に、あるいは描写的に見えてきたと思います。しかし他方で、指摘された問題がどの程度、どの範囲の子どもに該当するのか、どれほどのばらつきが存在するのか等については、別の形態での実態調査が必要である。また、本アンケートでは保育園児以外の子どもたちの生活実態が見えてきません。それを補う意味でも、中間のまとめに盛り込まれた通り、定期的に子どもの育ちに関する実態調査を行い、それを社会全体で見直していくことが必要なのではないかと思います。以上です。

(会長) これについてはいろいろ議論をしたいところですが、ちょっと今日は時間がないので、またいろいろな形でメールでも、これを参考にして、こういう項目を少し入れたらどうかということがあれば言ってください。

1つだけご質問があれば受けましょうか。

(公募委員) まず設問は、最終的にまとめというか報告をいただくときに一緒に付けていただけるということでしょうか。ちょっと気になりますのは、緊急一時・一時保育について、在園児と緊急一時の子と一緒にするのがマイナスになるのではないかというご指摘がありましたけど、これはきちんと、今の文京区で行われている、同じ部屋にばーんといきなり1人を入れるのではなくて、ちゃんと施設というか部屋が設けてあって、というプロセスを説明していただいているのでしょうか。

(団体推薦委員) 設問ではそれはしていません。

(公募委員) なるほど。ということは、区立保育園の中でたった3園しかやっていないので、一時保育の状況とか、どんなふうに行われているのかということは、17分の3園の保育士さんしか知らないということですね。

(団体推薦委員) たぶん先生方によると思われると思いますので、17分の3に限られるかどうかというのは分かりません。

(公募委員) なるほど。

(団体推薦委員) もちろんそれ以外の意見もありますので、これは顕著に出てきたものだけで、ほかの意見も、それはまた併用して出したいと思います。

それともう1つは、これはものすごく微妙なところまで、かなり立ち入ったところまで発言し

とくさっている方もいらっしやって、アンケートをする際に、先生の個人が特定できないように、どの園の先生かということも一切聞かない形で行いますということをお初めに申し上げました。そういう前提で答えていただいたので、そのお答えくださった先生が緊急一時をやっているところの先生か、そうでないかというあたりについての真実は断言はできません。

(公募委員) 今からというのは遅いかもしれませんが、こういったやり方をしているという説明があって、それでどうかという質問で、皆さんの気持ちを聞くことは不可能なのでしょう。

(団体推薦委員) 現場でやっていらっしやる、少なくともその3園を経験された先生方は、それを現場で見えていらっしやるので、僕が説明するのは…。

(公募委員) ですが、どの園からの保育士さんであるというのを聞いていないということは、すなわち、体験がある、ないというクロスがかけられないということで、非常に何というか、そうじゃないんだけどな、という気持ちでいっぱいなんですけれども。

それともう1つうかがいたいんですが、虐待防止になるメリットというのは、具体的にどんなことなのでしょう。緊急一時と一時保育のメリットとして。

(団体推薦委員) それは、そういうご意見があったということです。

(公募委員) カッコ書きとかで何かこう、記入は…。

(団体推薦委員) それは、現実的にはそういう側面が一時保育にはあると思います。非常に家庭で悩んで、やはりお母さんから一時的にちょっと子どもさんを離して、保育園にいる間、お母さんが気持ち的にも、精神的にも楽になるという役割は、一時保育は案外大きいと思います、現実問題として。パーセントで言えばそんなに多数ではありませんけれども、そういうお母さんたちの受け皿としてかなり役立つ機能は持っているのではないかと思います。

(公募委員) それは大切なことですね。

(団体推薦委員) よろしいですか。これは率直に保育士さんたちの意見ですね。こういう現実が確かにあるということは私も理解しますけれども、ビジョンにこれを入れた場合、入れ方の問題ですね。もう1つは、お母さんたち、あるいは働いている方というのはどれほど厳しい中で悩みながらやっているかということも一方ではあるわけです。ですから、そういうこともきちんと踏まえながら書かないと、何かお母さんたちけしからんみたいな話の方ばかりにいつてしまうと、やはりいけないのではないかと。私などの立場からしまして。

ですから、やはりきちんとその辺を踏まえたらえ方をしないと、現実はずっと厳しい人もいっぱいいるし、家庭の責任も大きいことはちゃんと分かっていますけど、その辺のところはよろしくお願ひしたいと思います。

(会長) それはそうだと思いますね。

(団体推薦委員) 大変面白い、貴重なアンケートだと思います。アンケートの属性は、今のご説明にあったように分からない形になっているということで安心なんですけれども、アンケートの記述のそれぞれのローデータというんでしょうか、資料第21号、22号は生の声そのまま入っていて、それぞれの解釈も面白いなと拝見してはいたのですが、23号の方も、分析結果を大変楽しみにさせていただきたいと思いますが、もしデータとしてすでにお持ちなのであれば、アンケートの具体的な記述についても共有資料として提供していただきたいと思います。

(団体推薦委員) できる限りしたいと思いますが、力を込めて書いていただいたので。ただ1点だけ、先生方に個人が特定できない形という約束をしています。ですので、それにかかわる、結構危ないデータについては出せません。そういう条件の下で、できるだけ記述を出して、分厚



なのだとか、またこの施策は私は反対だといろいろなことになるので、そこまで今回は議論しきれませんので、細かい施策についてまでビジョンとしては書き得ないだろうということです。あくまでも本当に子育てしやすいまちに文京区がなっていくためには、こういうことをこれから実現していこうというような夢なりビジョンなりというものを整理して書いていくという形にまとめたいと思います。そのために、もう一度この文章を基に少し文章を練っていただいて、まずビジョン、夢に当たる部分を整理していただきたい。

その上で、そのためにどうしたらいいか、という施策を出していただいた部分を生かしたいと思います。それは、それぞれのビジョンを具体化するための施策案というような形でその下に書き込んで、今回のビジョン実現のために例えばこういうことを緊急にやる必要があるのではないかというような形で付けていくという、そういうスタイルで生かしたいということを今考えています。

それから、もう少しアンケートそのものも整理しなければならないものもありますが、とにかく生の声をそのまま後ろの方に必ず付けるという形のものとして最終的には仕上げていきたいと思っていますので、とにかく1カ月ちょっとの時間しかないものですから、大急ぎでやらなければなりません。

事務局の方のがんばっていただいて、まだでこぼこがありますので、もう1回こういう文章でどうかというところの案をできるだけ早く作っていただいて、それを皆さんのところに早急にお送りするという形で往復を少し始めたいと思いますが、いつごろになったらそれはできますでしょうか。

(保育課長) 時間的に、やはり皆さんにご検討いただいて、また修正を重ねてというところになるのかなと思うと、まあ2週間程度いただくような形かなと思ってはいるんですが、それでもかなり大車輪かなとは思っています。

(会長) 2週間というと、2月の中ごろには皆さんのところに案を送付するという形で、なるべく早くということですね。それをちょっとお読みいただいて、ご意見をいただいて、もう1回詰めた上で、3月のはじめにもう1回委員会を持ちたいと思うのですが、今日次回の日程も決めなければいけないのですが、その前のメールその他でのやりとりを少し頻繁にさせていただかないと、会だけでは詰めきれないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

今のところ私の方からは、1カ月後としまして、3月2日の金曜日あたりはどうかと思いますが、ご都合は大丈夫でしょうか。

(団体推薦委員) 進め方についてちょっと意見なんですけれども、2週間後に配られて、読んで、次回の1か月後までに意見ということになると、結局各委員からの平面的な意見が出されるということで、もちろんもっと本当に読み込んで、がんがん意見を言わなければいけない立場であることは重々承知しているんですけれども、やはりこういう会というのは、ワーキンググループにしても、委員会にしても非常に貴重な場で、意見が結構出し合えるのではないかと思います。そもそも各ワーキンググループが出したものについては、中間のまとめで出したということで、中間のまとめの後でみんなで議論しようということだったと思います。大変なのは分かりますが、もっと議論の場が必要ではないかと思います。

また施策について、例えばということでビジョンと施策について分けるというのは、最初からビジョンの位置付けについてどういうものにするのかというのはあいまいだったので、それはそれで整理されていいのですが、あまり大きなワードでまるめてしまわれるのも、非常に嫌だなという気がしています。

(会長) あまり抽象度が高すぎると、何を言っているのか分からないということがありますね。

(団体推薦委員) そうですね。かなり施策の中にみんな思いを込めてワーキンググループでせっかく出しているのです。

(会長) (1) (2) のところは、そのままビジョンの項目だと私は考えているんですけども。ただ、そこに細かい施策を打つなり、もう少しビジョンとして文を書き直していくという形で、ある程度出していけるのではないかと考えています。

とにかく一度練ってみなければ、案を出してみなければ何ともいえませんが、形の上でそうしていただければ。

(団体推薦委員) 進め方ですが、1 か月先ですとかなり調整になってしまって、皆さんお忙しいと思いますが、今日いただいた資料は私は今日初めて見たわけで、ここで出た議論を持ち帰って、よく頭を整理して、今先生がおっしゃったような骨組みでもう1回再構成するとすれば、どうなのがいいのだろうかという議論を例えば2週間後とか、2月の半ばぐらいに1回やった方が。

(会長) 案ができてからの方がよくないですか。

(団体推薦委員) どうなのでしょう。事務局の方で案をまとめていただくのはそうですけれども、例えば私だったらこういうふうに考えると、皆さんだったらこういうふうに考えるというのがあるかなと思うんです。それを1回やるのもいいのではないかと。

(会長) たたき台があった方がむだがなくなるということもあるので。

(団体推薦委員) 複数あってもいいかなと。あまり細かいところまで、あまだこうだと言うつもりはないんですが、そういう議論を1回した方がいいのではないかと。

(会長) それは、案を出してもらう前にもかく1回やるということでしょうか。

(団体推薦委員) はい。

(公募委員) それも手だと思わすけれども、必ずもう1回集まる、1回きりというのは？

(会長) 別に決めていません。

(公募委員) それでしたら、たたき台があった方がやりやすいというか、たたき台が出て、それを見て1回、それからもう1回というのはいかがでしょう。

(会長) 2月中に1回議論をして、そして3月にまたもう1回するというのは、それは当然構いません。けど今のご意見は、なるべく早いところでもう1回したいということですよ。ただ、それはちょっとたたき台を、一応みんな議論し合う台としてやった方がいいのではないかと考えるのですが。

そうすると、2週間ぐらいはかかるということですから、3週ですね。2月19日の週。なるべく早い方としますと、19日月曜日とかそのぐらいでいいですか、だめですか。では、19日の週で一応皆さんのご意見を聞きます。そのあたりにともかく1回やろうと。その代わりに、たたき台をそれまでにがんばって作っていただくということで、それをもうちょっとこうした方がいいのではないかと、ああした方がいいのではないかとということをお聞かせいただいて、もう1回3月にやるということ。2月19日の週という、20日はちょっと今私は。じゃあ19日は都合が悪いという方、3人。20日、1人。

(団体推薦委員) 私の場合は代理が出ますので。

(会長) そうですか。21日、だめ。22日、だめ。23日、ちょっと23日が一番都合がいいみたいですね。では、23日ということにさせていただきます。そこでこの案をたたき合うということで、それに基づいてもう1回作り直して、3月の2日か、もうちょっと後になるかもしれません。時

間がかかるかもしれませんが、2日、あるいは5日の週あたりにまた、あまり時間をあけずにもう1回やりたいと思いますので、よろしくお願いします。

(団体推薦委員) その関係で1点だけ、たたき台はどなたが作成されるのですか。どう申し上げていいのかわかりませんが、がんばっていただきたい。これまでいただいた文章の質には、同業者として必ずしも満足していませんので、ぜひともここはちょっと力を入れて。

(会長) 今までグループのものをかなり尊重して作っていると思いますので、たぶん事務局の方も今回はもう少し…。

(団体推薦委員) たぶんあまり慣れていらっしやらない面もあると思うので、汐見先生からもインプットなど、よろしくお願いします。

(公募委員) 次の日程の確認なんですが、2日ではなくて5日の週ということですが、もしできればもう決めてしまった方が、たぶん出席しやすい方が多いと思うのですが。

(会長) その議論次第だと思ったのですが、でも3月に早いところやっておかないと。では、2日というのは1週間後なのでちょっと近いかなと思ったのですが、どうですか。でも、そのぐらいにやらないと間に合わないですか。もう時間があまりないですね。じゃあ1週間後、2日というのをまた空けておいてくださいますか、申し訳ありません。

(団体推薦委員) このたたき台を作るに当たって、ぜひともお願いしておきたいのは、先ほど言ったように抽象的なビッグワードで、どちらからでも取れるような形に絶対にしてほしくない。今までかなり考えてみんな、施策なのかもしれないけれども、具体的な提案というのをしているので。実行可能な、なおかつ区民がこういうふうになるんだと分かりやすいものでなければ意味がない、結局夢物語になってしまうということだと思います。これはビジョンなんだから、ビジョンなんだからといって逃げないでいただきたい。これはぜひ具体的な指針になるようなものにしなればいけないので、具体例を、なおかつこれは実現するんだというものが全面に出るようなものにしていただきたいと思っています。異論のある方もいらっしやるかもしれませんが、私個人としてはそう思います。

(保育課長) ご指摘の内容を十分尊重してということになるかと思いますが、ただ、ここで書かれたことに対しての提案みたいなものも、かなり区民意見の中では率直なところ、ここはいいかなものかという部分もあるので、そこはあえて配慮せざるを得ない部分も出てくるのかなとは思っています。ワーキングの中で、かなりタイトなスケジュール、大変な中でこれをご提案いただいたということでは、私もワーキングに参加させていただきましたので、本当にこれが成果物だろうという認識は持っています。

ただ一方で、今回いただいたパブリックコメントの中でも、両論というか、いろいろな角度からのご意見をいただいているということも含めて、ご提案をしていくという形になるかと思えます。それは、たたき台を汐見先生の指導の下にということを前提で作って、ご判断していただくような形になるかと思っています。

(団体推薦委員) すみません、もう1点、このまとめ案を作るためのワーキンググループというか、もちろん久住さんと萩原先生とかが中心になっていただけたらと思うんですけども、こうしたらどうかと我々も意見を言える機会があればいいかなというのがまず1点。

それから、ぜひともこれが今回限りではなくて、継続的に行われるんだ、実行の指針になるんだというのがたぶん今までの議論の前提だったと思いますので、継続されるように。

あと実行するための指針として、今日の資料第24号で父母連の方から出ていますけれども、以前、私から現状の問題点の分析シートを作ったらどうかというお話をさせていただいて提出さ

せていただきました。それは確かに政策にかかわることなのかもしれませんが、ビジョンが単なる絵空事にならないためには、ある意味こういうものも必要なのではないかということでご意見も出ているのかと思います。これは私がこうしろと、こういうものを出してくれと頼んだことでも全然ないです。ですから、それを踏まえて実現可能性を十分意識したものにしていただきたいと思います。

(公募委員) 実はこの文書は今日始めて見るものではないのですが…。これを初めて見せてくださった方にも申し上げたのですが、なにもわざわざこんな文書の出し方をしなくてもよいと思うのですが。こういう出し方をしなくても委員会の中で、みなさんの前ではっきり委員の方が訴えれば良いわけで。そもそもこの中の1番にあります文京区の人口動態はやるということで話が進んでいたはずです。

(団体推薦委員) やるという話でしたね。

(公募委員) 区はやってくださる、小野寺さんが1人で2日がんばればやれるぐらいのものなんですよ、ということだったのではないですか。それが何かあいまいになっているだけで、これはちゃんと皆さんがいる中で、これとこれがあればできるとか、できないとかはっきり聞けば、父母の会の方々にも納得していただけるんじゃないでしょうか。

私はちょっと知らないんですけども、周囲のデータが集められるとか、集められないとか、そういうやりとりをなさっていたじゃないですか。こういうデータがいるんですよとか、そういう話をされていましたよね。区としても、こういうデータがあればできるという話をされていたじゃないですか。それをこの場で確認すれば、もし2日でできるようなものであれば、次回に出していただくということは可能なんじゃないですか。どうなんでしょう。

(団体推薦委員) それは事務局が答えればいいじゃないですか、可能性について。それだけの話ですよ。

(保育課長) かなりタイトなスケジュールでやらなければいけないので、そこに手をかけるのは、もう今の段階ではちょっと厳しいなというのが率直なところです。

(公募委員) ということは、ビジョンが落ち着いて、スケジュールを全部こなしてしまった後に、例えば何月ぐらいというめどを言っていただければ、そこでやっていただいて、何らかの形で区のサイトに出していただくとか、もしくはこの委員にこういうのを作りましたとか。

(団体推薦委員) 僕の印象では、ずっとビナイン・ネグレクトにあっていたと思うんです。やっていることになっていて、2日ぐらいとおっしゃったんですけど、出てこないままの状態。少なくとも3回ぐらいは僕自身はお願いをしていますけど、いただけていないので、それは久住さんがおっしゃるようないろいろお仕事がある中でやられにくかったのだろうなということで、再度お願いしている状況です。

(会長) 人口動態だけであれば、それはもうすでに既成のものがあるわけですよ。

(保育課長) 今、人口動態の調査の詳しいことというのは、直近では介護保険に関連した動態調査というのが部分的にはありますけれども、全体でということについては、区のデータとしては取り組んでいないです。

人口の変更というのは、毎月毎月主管課の方でデータは取っています。それが電子データですと過去にさかのぼってある状態ではないので、町丁名別のデータ等については集積はできないという。

ただ、人口動態については、どういうレベルでどういったデータなのかというところはありますけれども、直近の計画などでは介護保険もそうですけれども、調査した部分ではあります。た

だオーダーといいますか、要求される部分の内容について、どこまでのものをどういうという形になると、なかなかデータそのものがないというところもありますので、例えば町丁別にこのデータをという形になったときに、そこまで細かいものはないということになるのかと。ちょっとその辺のところまで細かくお答えできずに申し訳ありませんが、そんなような状態です。

(団体推薦委員) 基本的には、保育課ではそういうデータは集めていないと思います。ただ、区民の動向というのは、例えば年齢別とか地域別とか、いろいろな区のデータを見たことがありますから、部署が違うと思うけれども、区のデータというものはあるのではないかと。

(会長) 国が人口動態統計というのを毎年出しています。厚労省ですけども、それはたぶん国がぜんぶまとめてやっているのではなくて、各自治体からのデータを集積してやっているはずですから、それに対応する調査は区のどこかでやっているのではないですか。

(団体推薦委員) 毎年我々の保育園の場合、必ず10月1日に厚労省は調査に来るわけです。毎年毎年きちんとデータという表になって出てくるわけですね。

(団体推薦委員) 建設的な提案として、あると思います。あると思うので、あとはどのくらいの労力で整理可能なのかについてのオプションを示していただければ、ということで。これはすぐ出せますとか、2日かかりますとか、次回まで時間があるので、ぜひお願いします。

(会長) ただ、僕も前に港区のこういう委員会があったときには、港区はご存知のように、今、ノッポのマンションがいっぱいできて、保育園をいくらつくればいいのかとか困り果てているわけです。それがあと20年たったら、さーっといなくなっていくということがはっきりしているわけで。それで、かなり細かな人口予測を実はやっているんです。それで何年までにこれだけつくらなければいけないということをやっていたのですが、そういう形で文京区はここにこんなマンションができるという、そういうのが今ものすごくあるということじゃないかもしれないですけども、ただ一応、何年度にどのくらいの子ども数になるかということについては、ある程度予測はしているという気がするんですが。

(団体推薦委員) そういう趣旨で第1回目からずっとお願いしています。

(団体推薦委員) 地域的にもかなり建設ラッシュが明らかな面もありますね。

(団体推薦委員) 保育園がここは明らかにないよねというところが、あるんです。区の施設にアクセスが非常に悪いところというのがある。そこを重点的にやらなければいけないのではないかと。具体的にここにつくれということはこのビジョン委員会でやるのではなくて、そういうプラットフォームを提示しなければいけないということを議論するのが、この委員会の役目だと思います。

(副会長) それに付随してですが、時間的なこともありますけれども、例えば今回の委員会の中で、いくつか文京区の方で、私たちが欲しいようなデータが実は集積されていなかったり、あるいはきっちりと整理されていなかったり。今後のビジョンの実効性という部分で、何を基盤にやっていくのかというデータですね。ここのところがいくつか欠けていたりということが明らかになったということであれば、ビジョンの最後のところ、保育ビジョン実現の推進に向けてというところで、そこところが実は抜けているんです。データの集積とか、ここところに大きくその課題を足していくということも可能かと思えます。

(団体推薦委員) その推進に向けての部分は、ビジョンではなくてこれは施策です、間違いなく。そうじゃないと、ビジョンがまったく絵空事になりますから。

(副会長) だからここのところへ、その基盤としてデータをちゃんと集積するということが求められるというふうにきちんと明記するとか。男女別の労働力の変化とかもあると思いますし、

先ほどご指摘のあった、幼稚園児が実際にどのくらいいて、どのくらいの方たちが何も利用していないのか、しているのかといったデータも、すぐには出てこないということも分かりましたので、その集積について具体的に盛り込む方向で検討させていただくというのでいかがですか。

(団体推薦委員) 半分賛成なんですけど、ちょっとコメントがあります。それがどこの自治体でもやっていない、ベストプラクティスに相当するようなものでしたら、今後の課題と今後の推進に向けてのところにに入れていただいていると思うんですけど、すでにベンチマーク的に多くの自治体ができていることであるにもかかわらず、この区でできていないところがあるとしたら、それは申し訳ないけれども、この短期間でも間に合わせていただくべきだと思いますので、それは案件の中身によりけりじゃないでしょうか。萩原さんがおっしゃったような部分が、それはどこもやっていないけど捉えたというものについては、そこで整理されるのは差し支えないと思います。

(副会長) では、総合的なところの推進のところも含めて、どこかにきっちりと次回のときまでにある程度まとめるということ。

(公募委員) その中に盛り込むというのはすごく大事で、それはぜひやっていただきたいと思うんですけど、それと同時進行で人口動態は、何があればできるとか、もう少し整理していただいて、それに対してというか、そのためには何がほしいというのを、ここで…。

(団体推薦委員) 申し訳ないけど、僕は専門家じゃないんですよ。それは本来、区が提供しなきゃいけないことなんです。それは専門家の先生を連れてきて、こうやれということは、僕も今、マッピングの専門家がいるのでできるかもしれないけれども、最低限やらなければいけないことを分かっているはずだと思うんですけど。それは僕に言われると困るんです。

(公募委員) データの内容については、私たちは専門家じゃないから分からないじゃないですか。じゃあ、何が見えるものがほしいのかとか。私たちズブの素人の目には、どうもここは薄くさいとか、どうも保育園がなさそうだなと目で見えるものがほしいのか。それとも数字でパーセンテージが、そのエリアで出るようなものがほしいのか。ごめんなさい、ずっと話が出ているんですけど、どういうものをイメージされているのかが分からなくて。

(団体推薦委員) それはすごく簡単に、町丁別の経年変化のものがあれば、あとは加工の仕方なんです。エクセルシートですべてやっていけばいいわけで、あとは見せ方の問題ですから。それをどういうふうにマッピングで示すのかとか、あるいは棒グラフで表すとか。まず基礎であるデータとして、すでに電子媒体になっているもの、なっていないものについての入力の可能性とかについて教えていただければ、あとはコスト、時間との関係の中で、何を使うかを考えていけば。

(会長) ただ、素人が考えても分かるのは、これまでの人口動態の変化はそうやって出せるんですけど、今後の人口の予測というのは、さまざまなファクター。例えばマンションが建つとか、何とかということを入れないと出てこないです。それをどの単位でやるかということが、文京区でどのくらい考えられているかというあたりは、そんなに細かくやっていないということであれば、そういうデータは出せないわけですよ。

(公募委員) それは未来のことですよ。今の現状を見るということは可能なんじゃ…。

(会長) 今までのものは出せるわけです。ただこれから、ビジョンですから、ここはこの辺が薄くなるとか、ここにこれだけの子どもが出てくるということになると、簡単にそれが出せるかどうか、そこは分からないですね。

だから、今あるデータでできるだけのものを出してもらおうということしかないと思います。書

き込むとしたら、これからのビジョンを考えていくときに、そういうことをきちんと補足するシステムをちゃんとつくるべきであるということは書き込む必要はあるかもしれません。

(団体推薦委員) 少なくとも、そのままは使えないと思いますけれども、高齢者の福祉のためですとか、それから義務教育のためには、すでにそういうある程度の予測もされているわけですから、ここまではほかでもありますよという準用できるぐらいは教えていただければ。

(会長) それと、ご存知のように諮問された区長は辞めてしまうんですね。それで、何だということになると思うんですが、逆だという感じはします。やはり区長は辞める前にちゃんと答申をして、これはちゃんと次の引き継ぎで、必ず守ってほしいとやらないとですね。今度の新しい区長一立たないですか？(笑)。一番いい手段は、この委員会から誰かが…。

(団体推薦委員) 任期は4月いっぱいあるんでしょう。選挙が終わらない限りは。だから、3月いっぱいにはちゃんとまとめれば…。

(会長) まとめを出して、それでどの区長になっても、これはちゃんと引き継いでくれと言ってもらわないと困るわけですから、新しい区長に渡しても、諮問されていないのにということになりますから。

(団体推薦委員) 誰になるか分からないからね。

(会長) 分かりました、どうもすみません。だいぶオーバーしてしまって申し訳ありません。それでは、本当に作るのは大変だと思いますが、文章を提案していただいて、2月23日に大急ぎで我々も検討したいと思います。またよろしくお願いします。